

アルパック ニュースレター



京都ファッション産業団地「メモワールビル」が竣工しました
(本文中に関連記事があります)

アルパック ニュースレター もくじ

1994年3月1日

- “伝統と創生”をテーマに京は燃える 2
- 産業技術記念館への期待 2
- 茅ぶき民家の里の村おこし 5
- 近代京都 まちづくり30年のメモワール 7
- 自治体の住宅・まちづくり政策 その可能性と課題 9
- 仮設利用による段階的なまちづくり 10
- 新刊旧刊書評紹介 11
- まちかど 12

NO. **64**

“伝統と創生”をテーマに京は燃える

— 平安建都1200年 オープニング・セレモニー — 三輪 泰司

100年に一度ではなく、1200年に一度の瞬間でした。1993年12月31日23時35分から、四条大橋の南北、鴨川畔に特設された会場で、平安建都1200年記念の年のオープニング・イベントが始まりました。

1994年1月1日の10秒前、河原から橋の上までぎっしりと集まった市民が一斉にカウント・ダウンの掛け声。山々と街中から飛び交うサーチライトが雲を撫でまわり、太鼓が轟き、大歓声とともに記念年に突入しました。

雅楽とシンセサイザー、篝火とレーザーの交錯、巨大な招き猫とビルの壁に踊る映像のパフォーマンス、この奇妙で、激しく、楽しく洗練させてしまうコントラストがやはり、“京都”でしょう。

雅楽の演技から振る舞い酒のサービスまで、ボランティアは若者ばかり。お店を休憩所に提供したりして、市民がサポートします。

何でも面白い文化にしてしまおうとしたかな、

若者と町衆のエネルギー健在の幕明けでした。

京都は時々、まっ百年に一度くらい、燃え上がります。この度は、京都が元気になれば日本も元気になる、そんな気負いも加わっているようです。

“伝統と創生”をテーマにこの一年間におよそ1,000の催しが繰り広げられます。乞うご期待。

(代表取締役会長・平安建都1200年記念協会
評議員 みわ ひろし)



オープニング・セレモニー

企業博物館

『産業技術記念館』への期待

尾関 利勝

モノづくりを見直したい

団塊の世代が小学生の頃は工業化時代と言われ、当時の情報機器・ラジオを子供が造ることが出来た時代だった。テレビが情報機器の主力となり、コンピューターが遊び道具となる現在は情報化時代と言われ、道具を買うことは出来ても造ることは不可能な、モノづくりが見えない時代になった。かつては技術への興味や創造の喜びを生活の一部として感

じることが出来たが、今日では、それらを身近に感じる事が難しい。見えない時代だからこそ、未来のためにモノづくりの喜びを身近に取り戻したいと思う。そんな願いから、この10年、名古屋で道具と機械の発展を実証する産業遺産が注目され始めていた。

工業高校での技術教育現場の発想から、愛知県内の近代工業を中心とする道具と機械を地道に調査した「愛知の産業遺跡・遺物調査

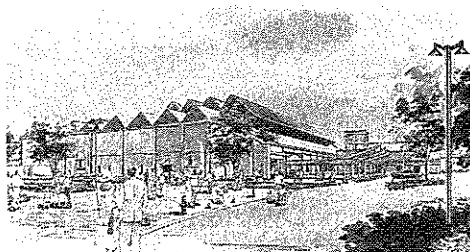
保存研究会」(現・中部産業遺産研究会)の成果は、他地域には見られないデータストックで、これをきっかけに道具と機械の発展を学び、未来への創造マインドを醸成する感動体験の場—産業技術博物館の動きが広がりつつある。名古屋地域は企業博物館が多いが、その中で機械と生産技術の発展を、機械を実際に動かしながら展示・体験する画期的な企業博物館が新たに誕生する。

産業技術記念館がオープンする

今年6月、名古屋の栄生に産業技術記念館がオープンする。産業技術記念館とは、トヨタグループ13社の発祥地、名古屋市西区の豊田自動織機製作所栄生工場に、自動車産業のパイオニアである豊田喜一郎氏の生誕百年を記念して、自動織機の発明で知られる豊田佐吉翁とその長男喜一郎氏のモノづくりの創業精神を継承し、繊維と自動車を中心とした機械技術と生産技術、機械の原理をテーマに、当時の赤レンガ工場を産業遺産として保存修復して建設される。開館前の現場見学から、以下のような特徴を感じた。

①動態展示

機械や紡績などの繊維機械・技術と自動車技術、生産機械・技術を国産化から最新技術まで、機械と技術の歴史展示と、実際に機械を動かしながら展示するもので、工場では見られない部分を見せる仕掛けもあり、巨大なダンリーの600tプレスの作動など、開館前



産業技術記念館イメージスケッチ

の展示準備途中でも圧倒されるような迫力があつた。

②建物も産業遺産

建物は創業期の工場を保存・修復した産業遺産で、これほど大規模(延床面積約2万㎡)で本格的に取り組まれたものとしては日本では画期的なものだ。

③遊びながら学ぶ場

3つのテーマ館の1つは、機械の原理や機構を子供が遊びながら理解する装置を持った場で、このテーマ館は入場料が不要とのことだ。

④企業博物館としては国内最大

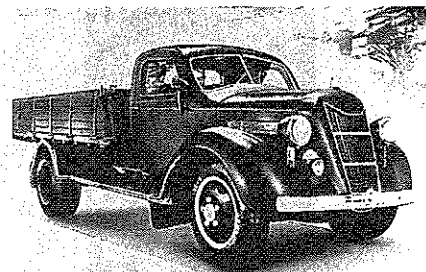
愛知県犬山市にある明治村のようなテーマパーク型のものを除くと、企業博物館として従来国内最大だったのはトヨタ鞍ヶ池記念館で、今回の産業技術記念館はこれを若干上回る国内最大規模のものだ。

企業博物館の動機と成立

現在のような時宜にこのような事業が行われることに驚く方は多いだろう。この計画は(財)トヨタ財団の初期の構想調査以来約10年、創業精神を継承する企業グループにより実現されたものだ。この構想調査に足掛け4年、アルパック名古屋がお手伝いさせて頂いた。他の企業例も含めて、企業博物館が造られる動機と成立要因を挙げてみる。

①創業マインドの継承

この調査の中で、グループ構成員全体に創業の精神が浸透していること、小さな部品の



<テーマ館2>G1型トラック(昭和10年)

1つにもその技術的背景となる創業者の創造精神が理解され、語り継がれていることに、正直なところ驚きを感じた。

②技術者の情熱

博物館の創設は建物より展示物収集に多大なエネルギーを必要とする。産業技術記念館に展示される相当数は、グループ中心企業の1つ(株)豊田自動織機製作所刈谷工場の豊田佐吉翁記念室などグループ各社で収集保存・展示されていたものが多い。その背景に、失われた過去の自社製品を探し歩き、時には海外流失したものを回収、稼働可能な状態に復元・維持してきた社員や技術者の並々ならぬ情熱があった。今回の展示の1つ、喜一郎氏が自動車の開発研究に使用した当時の実験機械は、愛知製鋼(株)刈谷工場で、技術者によって手入れされ、いつでも使える状態で保存されていた。世界でも珍しいガイシ博物館(愛知県小牧市)でも、その創設に先達の英知を伝承しようとした技術者の個人的発意が元になっているようだ。個人の情熱と努力が大きいことを痛感する。

③事業の社会性と記念性

企業が創業以来の機械や技術を保存するだけでなく、博物館として一般に公開するためには相当の決断が必要だ。その動機として、技術発展の歴史を公開する社会的意義と社内的意義の一致が深く関係しているように見受けられる。それが企業の記念事業としての位

置づけで時間的目標となって具体化を促進させるようだ。このことは、行政によるプロジェクトの実現にも共通している。

実現する喜び

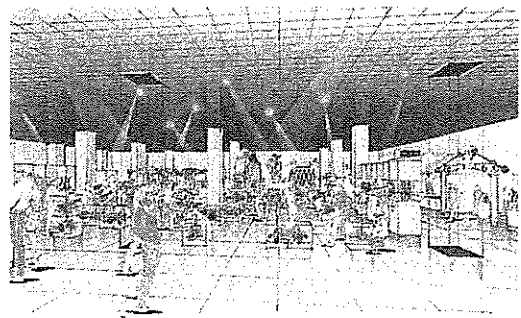
産業技術記念館の構想調査をお手伝いし、国内外の官民の博物館を調査して、博物館の意味とともに企業における創業マインドの継承の重要性を勉強した。それは時代の変化に対する博物館の役割にも共通する。博物館と言うと過去の不要物を収蔵する暗くて陰気な場と言う認識があるようだ。コンサルタントや行政マンでもそういう声を聴くことがある。欧米の博物館を見ると、現代につながる過去の時代の最高傑作を集め、未来の創造につながる熱い感動を与える場になっていることを実感する。産業技術記念館はその様な誤った博物館の認識を払拭するまたとない場となるだろう。そして今回のような例が産業地域が育む地域文化のあり方を示すモデルになるように思う。

実現する計画は構想段階と土地条件が多少変わり、その後の経緯で内容にも変化はあるものの、基本的な構想の精神とプランの骨格はそう変わっていなかった。シンクタンクやコンサルタントの仕事は長期にわたるテーマが多く、なかなか実現に至らない中で、私たちがお手伝いした構想が実現することに改めて熱い感動を覚える。オープンが待ち遠しい。

(名古屋事務所 おせき としかつ)



<テーマ館2>ダンリリー600tプレス(昭和35年)



<テーマ館3>展示場イメージスケッチ

茅ぶき民家の里の村おこし

～京都府美山町『自然文化村』づくり～ 山口 繁雄

美山町とのおつきあい

美山町とのおつきあいは、かれこれ4年程になります。京都府の委託調査で「京都中部地域整備構想」を検討している折、京都府の方と一度美山町まで足を伸ばし見てこようということになり、雪の中を車をとばして出掛けたのが最初です。

調査対象地域なのに、わざわざ出掛けるといのは何事かとお叱りを受けそうですが、美山町はそれだけ近くて遠いのです。

美山町へは、役場ではなく『自然文化村』に直行しました。何故なら、ここが美山町の村おこしの拠点だからです。

そこにたまたま居合わせたのが、『自然文化村』館長の子馬さん。この子馬さんの飾り気のない朴訥とした語り口に耳を傾けているうちに、美山町の村おこしにかけてきた情熱の深さと取組みの素晴らしさに舌を巻く思いをしたものです。

以来、京都中部研究会のメンバーと何度となく美山町を訪れることになりましたが、ついには、昨年9月、アルパックの京都事務所所属にも「美山の子馬さん」を知ってもらうべく、研修会を『自然文化村』で行うまでに至りました。

村おこし事始め

美山町は京都市の北方約50kmにあり、その北部は福井県嶺南地域と接しています。美しい山並みに囲まれた山間農村で、由良川の源流域に位置しています。

この美しい自然環境を持つ美山町も、昭和40年代半ばから都会への人口流出、農地や林地の荒廃等が進み、「過疎化との闘い」が大

きな課題となりました。

過疎化が集落の崩壊につながりかねないという危機意識から、子馬さんたちは、昭和51年度より集落懇談会を何百回となく重ね、住民要求を掘り起こしながら「集落計画」を策定しています。

この計画をもとに圃場整備と集落センター整備を中心に進め、10年間に100億円以上の国・府の制度導入による事業を推進してきています。これが第1次の村おこしとして位置づけられているものです。

この「集落計画」づくりは、ハード面よりむしろ過疎化で弱まりつつあった集落組織の再編強化にねらいがあったとのことで、当時反対者も多かった圃場整備問題を俎上に上げて、集落間競争を仕組み、各集落の組織強化に役立たせようとしたということです。

過疎化の進展による地域社会崩壊の危機意識は、今日想像する以上に強かったように思っています。

しかし、過疎化との闘いは、そう容易なものではありませんでした。町内の産業基盤を整備しても、経済的にはなかなか自立できないし、人口流出も食い止められません。昭和50年代に入ると、今度は林業の不況に見舞われ、過疎化に拍車がかげられるという事態を招くに至りました。

そこで、いわば苦肉の策として登場したのが、「都市と農村との交流事業」でした。

今でこそ“グリーンツーリズム”等と言われ、農村型リゾートとして市民権を得つつありますが、当時は全国的にみても恐らく“走り”だったように思います。

自然文化村づくり

『自然文化村』整備構想は、そうした経緯で生まれ、昭和57年、町は荒廃している農地及び山林約6haを取得し、「第3期山村振興事業」と「リフレッシュふるさと推進事業」の制度を導入して、都市と農村の交流拠点施設である『自然文化村』づくりをスタートさせています。

この『自然文化村』がようやく開村にこぎつけたのが、年号も平成に改まった元年の7月。構想づくりを初めてから実に7年が過ぎていました。

この『自然文化村』は、先述のように、都市と農村との交流の場として構想されていますが、地元の戦略的な位置づけとしては、次の3点が挙げられています。

①地場産業の振興

- 木・水・土の文化や食の文化にこだわる。
- 可能な限り地場の産物を供給する。
- 地域への経済的波及を現実のものとする。

②雇用の創出

- 年間雇用体制の確立をめざす。
- Uターン青年の雇用の場をつくる。
- 地域雇用の促進を図る。

③文化の推進

- 自分たちの郷土の良さを認識する。

『自然文化村』は、これらの諸点を実に見事に実現しています。

木・水・土などにこだわる

ところで、『自然文化村』はどのような施設群で構成されているかという点、概ね次のとおりとなっています。

- 宿泊棟（地元木材の集成材使用の2階建て）
- 茅ぶきの家（移築、木造平屋建て）
- ホール棟（木造平屋建て）
- 体験実習（陶芸）館（木造平屋建て）
- りんご園（会員制）

- キャンプ場・運動広場・テニスコート
- 水泳場・魚のつかみどり場等

これらからも明らかなように、木や水、土の文化へのこだわりは相当なものです。

また、食の文化については、山の幸、川の幸等へのこだわりが見てとれます。りんご産地の南限への挑戦も見逃せません。

苦勞の絶えない経営運営

『自然文化村』の経営運営については、子馬さんらが最も苦勞したところだったようです。いうまでもなく経営の素人が、ある種の観光宿泊業を始めたわけですから、初めは失敗ばかり。そうした中で、子馬さんは次のような教訓を披露してくれました。

- 宣伝費は、過大すぎるとは経営を圧迫する。
- 宿泊費は安くしたから良いというものではない。
- スリッパの出し方から客の見分け方に至るまでの接客ノウハウの習得が大変。
- 「うまいこといくんや」という信念が大事。
- 人との出会いを大事にする。

花開く美山の村おこし

こうした苦勞の積み重ねで、現在、『自然文化村』は、年間利用者数約58千人、宿泊者数約6.8千人、キャンプ場利用者数約5.6千人、りんごオーナー560人となり、年間総売上約1億3,000万円の実績を上げるまでに成長し、館長の若返り、職員へのUターン青年の採用等も実現しています。

また、美山町は、「第3回全国農村アメリティコンクール」（昭和63年度、国土庁）及び「活力ある美しい村づくりコンクール」（平成3年度、農林水産省）において優秀賞に輝き、最近では、茅ぶき民家の残存率が日本一という集落環境をいかした「茅ぶき民家の里」としてその名を馳せつつあります。

（京都事務所 やまぐち しげお）

近代京都・まちづくり30年のメモワール

— 京都ファッション産業団地の記念碑 — 三輪 泰司

1月17日、京都ファッション産業団地組合のメモワールビルの竣工披露が行われました。組合員の皆さんはもちろん、私達にとっても感慨無量の日でした。

河野卓男ムーンバット(株)会長は、昨年初めから体調を損ねられて、この席には見えませんでした。桃山丘陵を望む8階ホールで開かれた披露パーティで、理事長代行・脇田周輔(株)会長が言われましたように、このビルは河野理事長の信念とリーダーシップ、そしてその下に平等・互恵の精神で、幾多の困難を乗り越えて進めてきた、組合員各社と行政の共同による、近代京都・都市づくり30年の“メモワール”でもあるのです。

近代都市・京都の顔

場所はもうかなりの人が足を運んでいる京都府総合見本市会館—パルス・プラザ—のある所といえば分るでしょうが、京都ファッション産業団地といっても京都の市民でも知らない人が多いでしょう。

そこには産業団地という看板も立っていないので無理ありません。でもパルス・プラザを囲むようにして、スマートな建物が林立している風景は、ハテ“京都ばなれ”したところだなと印象にあるでしょう。

アルパックの京都事務所で、この団地の仕事に携わったことのない所員は、モグリみたいなものです。この30年の間に、入れ代わり立ち代わり汗を流しました。

そして、この団地はハード・ソフトともにユニークで先進的なことで、京都の都市づくり史に記録されることは請け合ってよいと自負しています。

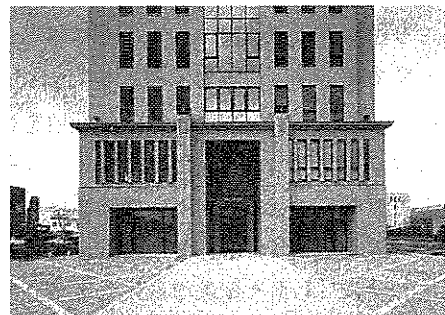
昭和37年(1962年)9月、室町の繊維卸業の有志8社が発起して「洛南地区開発組合」を結成したのが始まりです。

大きな戦災を免れた京都は、復興とともに大阪などから移ってきた企業に生産基盤を提供しました。立石電機製作所が右京区鳴滝に疎開して御室工場を造ったのが昭和20年8月、現在のオムロン(株)です。やがて軍需工場に動員されていた西陣織や友禅染の熟練労働者が戻り、1960年代になると繊維・衣服がリーディング産業に浮上してきました。昭和24年にはワコール(株)が創業しています。一方、新しい都市基盤の整備にも取り掛かりました。

伏見西部土地区画整理事業が始まったのも昭和36年でした。区画整理は「上物」には弱い。新しい都市づくりを意図する市行政と大量化する商品輸送に新天地を求めていた企業



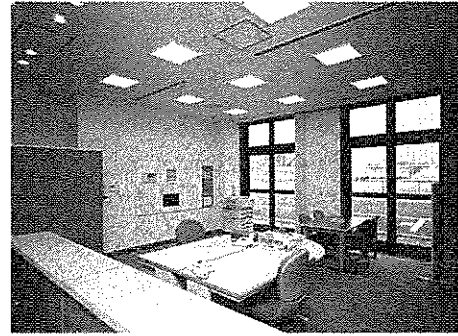
竣工披露パーティ：8階会議室



ピロティ



エントランスロビー



組合事務室

のモチベーションが一致し、ここに土地取得を開始しました。組合はその後、繊維産業団地建設組合に、さらに京都ファッション産業団地組合へ名称を変えましたが、組合員はワコール㈱、ムーンバット㈱、京セラ㈱などの大企業ばかりで、現在に至るまで任意組合で通しています。そして、団地運営3ヶ条の「憲法」も守り貫いています。①京都市の都市計画と協調して進める②ファッション産業を主とし、それに相応しい環境を造る③平等・互恵の精神で運営する、です。

団地の憲法と地区計画

30年の間には数えきれないくらいの苦難と波瀾を経験しました。

土地区画整理事業の停滞で数年足止めになり、土地を担保にも置かず、組合員各社は歯を食い縛って頑張りました。廃棄物の不法投棄と生い茂る雑草との闘いが続きました。

市の示唆に応じて周辺一帯で買った組合の土地を、市は区画整理の“集中換地”の方法でまとめました。

メモワールビルの位置はちょうど養豚場があった所です。市は公害対策事業も動員して開発公社で取得し、保留地となった土地を組合が買取り共同用地としたのです。

組合の心意気に行政が応え、行政の後押しに組合が応える、時には声を荒げながらも、互いに“感応”しあう関係で進んできました。

まだ、養豚場のふくいくたる臭いが立ちこ

めていた昭和52年7月、ルシアン㈱が洛南商品センターを建設しました。第1号です。続いてムーンバット㈱、ワコール㈱も建てました。

昭和57年から62年までが、団地とその周辺地区にとって大きなエポックでした。

57年3月、京セラ㈱が丸紅㈱の土地を継承して加入。昭和59年、京都府が創立以来の組合員であった吉忠㈱・丸忠㈱等4社の用地を譲り受け、パルス・プラザをつくりました。

これは平安建都1200年記念関連事業に位置付けられ、京セラ㈱稲盛和夫会長の寄贈になる「稲盛ホール」を持つユニークな施設です。

歴史都市・京都には、多様・多彩なデザイン・ファッションの拠点がありますが、その中でエンターテインメントも加えた新しい情報とクリエイティブの拠点になってきました。

都市周辺部の沿道立地型一配送センター型から情報業務の高度集積機能地区への転換です。組合員企業の建物もデザイン・センターや管理センターに変化してきました。

30年前には1社も上場していなかった組合員企業も大きく成長しました。

組合は、情勢の進展を分析し、団地の理念を将来へ継承することと、京都南部の情報業務高度集積地区としての地域整備のあり方を検討し、用途地域・容積率の変更を要請するとともに、団地一帯10.5haに地区計画をかけることを決定しました。

未来に拓く街

平成4年2月、地区計画の都市計画が審議会にて承認され、それを受けて京都市は用途地域を従来の準工業地域から商業地域へ、容積率も400%に変更、平成5年10月には総合設計制度が改正され、高さ規制が撤廃されました。

ファッションタウンのまちづくりは、土地・建物の所有者が、自主自律の精神で、地区計画等の自主規制をたてて公共性を担保し、行政がそれをバックアップするというこれからの都市づくりのモデルとなるでしょう。

昭和50年に行った発掘調査によって実証されましたが、上古、この鳥羽の地は、宇治川に続く湖沼が入り、平安京創建のための資材搬入の“波止場”でした。平安期・鳥羽離宮というもう一つの“内裏”もその施設の一部を船遊びに利用し、江戸期の高瀬川開削もここを通しました。

古都・奈良へ通ずる“下ツ道”や水運は、

時代とともに変わりましたが、いま名神高速道・第二京阪道が通じ、関西文化学術研究都市・関西国際空港へ、さらに21世紀には、第二名神高速道・リニア新幹線へアクセスするという、まさに、京都が全国・全世界と結ぶ位置にあります。歴史的なこの情報と文化が交錯する地の利を活かし、平安建都1200年の天の時、組合員各社が人の和の精神をもって、引き続き、情報・文化拠点となる建築を進めること、さらにこの団地に続いて、周辺地区が情報業務高度集積地区として美しく成長することを願うものです。

まちづくりを成功に導く鍵は、当事者の平等・互恵の精神に立つ徹底した議論と献身的で、無私で、広く深い見識と信念をもったリーダーシップにあることを学びました。

メモワールビルは、その“メモワール”なのです。どうぞこの美しいビルをお訪ねになって、美しい桃山丘陵などご覧下さい。

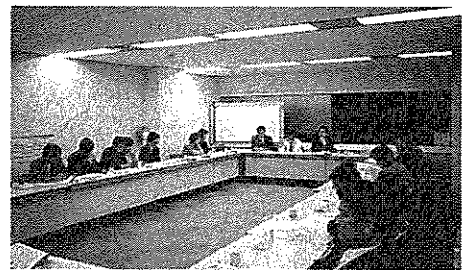
(代表取締役会長 みわ ひろし)

きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況

自治体の住宅・まちづくり政策
その可能性と課題
—神戸大塩崎先生講演要旨—
森脇 宏

はじめに

大阪事務所では、コンサルタントとしての情報発信や社会的貢献等を目的に、以前からアルパック・セミナーを適宜行っています。このセミナーでは、各分野で活躍されている研究者等を講師にお呼びし、さらに行政担当者や民間プランナー等の方々にもご案内して、講演とディスカッションを行っています。昨年末の12月8日には、神戸大の塩崎賢明助教授に、「自治体の住宅・まちづくり政策—その可能性と課題—」というテーマでお話をうかがい28名の参加者でディスカッションでき



ました。

講演等の概要

講演の主な論点は次の5点で、要旨は、私なりの理解では次のようにまとめられます。

①戦後住宅政策のながれ

今回の地価高騰で、戦後の住宅政策の枠組みが崩れ、住めない都市、コミュニティ崩壊、中間層でも持家が持てない状況が生じている。

②まちづくりのながれ

居住環境整備を中心に、まちづくりの流れ

や成果をみると、修復型改善事業や住民参加等の面で、関西は全国的な先進地域であった。

③自治体における新たな模索

バブルの中で、緊急避難として、多様な試み（区民住宅、家賃補助、住宅附置義務等）が、東京の基礎自治体等で模索され、最近では住宅条例へと発展してきている。

④関西の場合

東京等と比べると、基礎自治体の取組みは弱い。バブルの深刻さや風土の違いなどはあるが、それだけで説明できるのか。

⑤自治体住宅政策の推進のために

カネ（予算）とヒト（組織）、住民生活を守る基本的総合的施策（長期的戦略、福祉等との結合等）という認識、市民参加を促す新たな仕組み等が必要である。

また、講演を受けたディスカッションでは、関西と関東の違いの背景に、人口減少や住宅供給等に対する自治体の認識の違いがあることなど、多面にわたる議論ができたと思います。

おわりに

このセミナーは、今後とも適宜行うつもりです。ご招待の案内状は、行政担当者や民間プランナー等の方を、適宜テーマごとに選定して、お送りしていますが、「これまで案内状をもらっていないが、どんなテーマでも取りあえず送ってほしい」と希望される方は、大阪事務所へご一報願います。

（大阪事務所 もりわき ひろし）



ゲームセンター

仮設利用による段階的なまちづくり

中塚 一

大阪市内の天王寺・阿倍野周辺は、動物園や美術館等を含む約25haの天王寺公園や最近テレビで大阪と言えば背景に映っている通天閣がある新世界界限、そして大規模な再開発が進められている金岡地区等、下町らしさと新しさが混ざり合った独特な趣のあるまちです。

そのまちに、最近、空地や空家を暫定的に利用したイベントや仮設店舗等による新たなまちづくりが進められています。

現在、一部ですが、バスケットコート（3人対3人でするスリーオンスリー用）やニューヨークのソーホーさながらの壁面ペイント、既存の建物を再活用した大規模なアミューズメントセンターや飲食店等がオープンしています。そして、今後、さらに駐車場等を活用した様々なイベント等が計画されているようです。

将来的には、これらの仮設店舗等は建て替えられていくと思われませんが、これらの動きは、まちを段階的に再生、創り出していく1つのステップ、まちの分脈になると思います。

今、最も大阪らしい界限性をもったエキサイティングなまちに変わろうと試みる天王寺・阿倍野周辺を体感してみたいかがでしょうか。

（大阪事務所 なかつか はじめ）



バスケットコート

新刊旧刊書評紹介

ロバート・ジェームズ・ウォラー著 文藝春秋

「マディソン郡の橋」

紹介 大河内 雅司

○さん：おうおうP君、あの本読ましてもろたで。えらいよかったわ。

P君：それで、どこに感動しはったんですか？

○さん：それより君、あの本ゆうたら、突然ベストセラーになったんと違ごうて、じわじわ読まれてやっとのことで一位になった、ゆうてみたら大器晩成型なんやね。あれがうけた背景に僕はごっつ興味あるわ。

P君：そんな、本の感想おいといて、いきなりベストセラーの背景さぐってはるんですか？ さすがコンサルの鏡。

○さん：いやいやところで、ぼくは彼の生き方に惹かれたな。管理社会に背を向けて旅を続ける独身中年男。フリーのプロカメラマンという生業が孤独な生き方を支えてるのや。やっぱ、男はええ仕事持たんとあかん。どやアルパックは？ 自由な会社やから仕事しやすいやろ？

P君：仕事の話はおいとくましょか。結婚生活が長いところで教えて欲しいんですけど。愛し合っていたわけやから、彼女は家庭の責任なんて放っといても、彼と駆け落ちすべきやった思いますけど。

○さん：話題をうまく本の方へ引き寄せるやないの。ヒアリングはコンサルの重要な技術やからね、その調子で勉強してや。

P君：家庭生活は平和やけど、彼女は自分の情熱を注ぐ先があらへんかったでしょう。そんなときに彼が現れた。ふたりはアッという間に恋に落ちてしもたんで、ぼくはてっきり駆け落ち物語かと思たんですけど。そっから先は、予期せぬストーリーでしたわ。

○さん：君の言うとおり、家族と自分とどっ

ちが大切やいうたらもちろん自分やで、けどな、家族もったら幸せて、自分だけのものと違うしな。観念かもしれへんけど家庭の責任で確かにあるやん。彼女は

夫も家族も愛していたんよ。そやけど、その気持ちは彼への想いとは違ごうてたんやろな。

P君：最後は悲しい結末やったですけど、それでも彼女は幸せやったゆうことですか。

○さん：幸せゆうたらいろんなかたちがあるのとちゃうか。彼女のように家庭を大切にしながら、彼の思い出の中に生きるゆう幸せもあるやないの。彼かて愛しているからこそ、そんな彼女の気持ちを大切にしたんやないか。

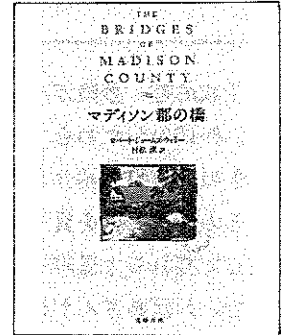
P君：この時代に、そんな幸せのかたちもあるゆうことだけで、これだけ読まれたんですか。

○さん：この本読んだもんは、人を愛するゆうこと、ふたりの姿をつうじて考えたんちゃう。僕は目の前の嫁さん「出会った時のように愛しているやろか」「ふたりでいる時間もっと大切にせなあかん」って思もたで。

P君：ひょっとして奥さんも思い出の中で生きてはったらどうします？

○さん：・・・・・・？！

(大阪事務所 おおこうち まさし)



まちかど

城崎町で見つけた
とっておきの景観
中室 紋子

「城崎町・景観ガイドライン」ができました。作成のかたわらで、私が発見したとっておきの景観を、紹介しましょう。

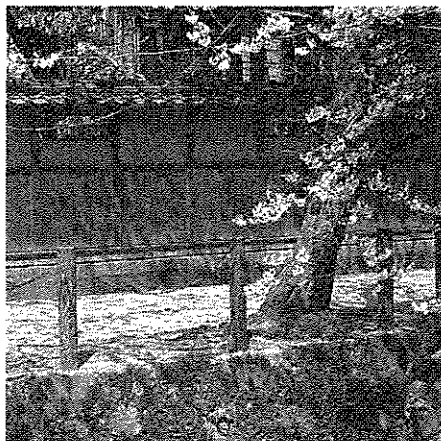
その一。まちを貫く大谿川が中央通りと分岐して流れる木屋町通り。桜の季節がばつぐんで、おばあさんが好んで散歩しそうな通りです。

その二。旅館やおみやげやさんの看板の数々。素材のいい、渋いのが揃っており、モノトーンの美学が感じられます。

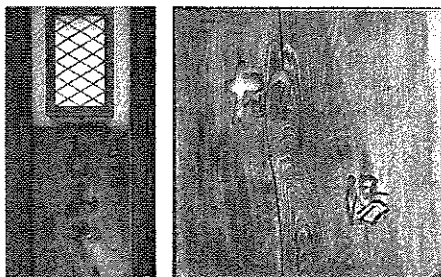
その三。城崎町には、路上で海産物を売る行商のおばちゃんがたくさんいます。道を歩いていると、「魚、いらんか。」と寄ってきます。景観ガイドラインには、この行商のおばちゃんの写真も登場します。

なお、作成した景観ガイドラインは、城崎町の全戸に配られるそうです。きっと、行商のおばちゃんは、この景観ガイドラインを見て、にんまりすることでしょう。

(大阪事務所 なかむろ あやこ)



落ちついた板塀と木屋町通り



渋さと素材のよさが伝わってくる看板



路上で海産物を売る行商のおばちゃん

アルパック (株)地域計画建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

| | | | |
|-----------------|------|---------------------------------------|----------------------|
| 本社 | 〒600 | 京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町82 (大和銀行京都ビル6階) | TEL (075)221-5132(代) |
| 京都事務所 | | | FAX (075)256-1764 |
| 大阪事務所 | 〒540 | 大阪市中央区城見1-4-70 (住友生命OBPプラザビル15階) | TEL (06)942-5732(代) |
| | | | FAX (06)941-7478 |
| 名古屋事務所 | 〒460 | 名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 (ツボウチビル2階) | TEL (052)962-1224(代) |
| | | | FAX (052)962-1225 |
| 東京事務所 | 〒160 | 東京都新宿区新宿2-5-16 (霞ビル401号) | TEL (03)3226-9130(代) |
| | | | FAX (03)3226-9560 |
| ㈱九州地域計画研究所 | 〒810 | 福岡市中央区天神1丁目15番1号 (日之出ビル6階) | TEL (092)731-7671(代) |
| | | | FAX (092)731-7673 |
| ㈱アルパックインターナショナル | 〒540 | 大阪市中央区城見1-4-70 (住友生命OBPプラザビル15階) | TEL (06)965-2012(代) |
| | | | FAX (06)965-2014 |
| ㈱都市居住文化研究所 | 〒604 | 京都市中京区東洞院通六角上ル 三文字町225 (朝陽ビル4階) | TEL (075)252-2231 |
| | | | FAX (075)252-4417 |